

尊い体験、本当に最高

園長 小島澄人

森、野原、たんぼ、畑、庭、園舎、そして教職員、子どもたちを取り巻く尊い環境です。自然から受ける学びは本や旅行からの体験よりもこどもたちには大きな影響を与えます。そして毎日のように関わっている先生方は、幼い時の学びに深い物を残してくれます。人生の生き方のほとんどを学ぶ大切な時です。生まれてから4、5年であっても、この4、5年が最も大切な時期です。その大切な時期にずっと関わってきたお母さん、お父さんの力は計り知れません。そして、最後に同じ気持ちで入園してきた同年代の子どもたちがあってこそ大きな育ちです。自然、先生と子どもたち、そして家庭、どれも大切です。子どもたちは一年間、大きくなりました。

幼児教育は幼稚園、長い間確保してきた広大な環境、広い森、森、本当に広大な畑、畠、です。果樹園から柿、みかん、かりん、こどもたちは直にとって味わったり、においをかいだり、本当に楽しんでいました。さつまいもを掘りに畠に出かける子どもたちは張り切っています。でかいお芋、次から次に出てくるお芋にびっくり、本当に重そうに抱えたり、引きずったりしていても、顔は誇らしげです。掘った袋の中を見せようします。職員室に届く、ほっかほっかの、焼き芋。調理室では毎日のように、チップにしてあげていますが、それも届きます。蒸籠でふかしたお芋も美味しいです。毎日、おいもパーティー、楽しそうです。12000本のサツマイモ、保育園の子どもたちも掘りに来ました。豊作でした。

田んぼ、お米が実っています。稻刈り、もみすり、精米、そしてお餅つき、一緒に食べる、一年の子どもたちの活動です。すり鉢で、ボールを転がしていくと、じょじょにお米になっていくのを、自分で体験して、お米を大切にすることがわかってきます。もう大根も大きく育っています。大きな、大きな大根、必死に持ち帰る、これも子どもたちには大きな体験です。あの、ちっちゃな、ちっちゃな「種、しかも赤い種」から、育った大きな大根です。サツマイモは、茎を土に埋める。お米は田んぼに苗を埋める。大根は、小さな種を土に蒔く。いろんな植え方、育ちに感動し、ごちそうになる。素晴らしい体験です。本当にすごいことを体験しています。

いよいよ、今年も12月。子どもたちは発表会、たくさんの方に見てもらう喜び、見て、見られて育ちます。褒めて褒められて育ちます。まねてまねられて育ちます。発表会、子どもたちが大きくなる最高の機会、広いホールで演じる子どもたち、楽しみです。その楽しみを、家族だけでなくみんなに見てもらいたい、褒められたい、そこに育ちがあります。

銀杏、その紅葉。モミジの紅葉。毎年、うっとりさせてくれます。この年に感謝しながら、また来年の育ちを期待しています。ありがとうございました。